



## あたた あめ つめ あめ かた 暖かい雨と冷たい雨のでき方はちがうの

### くうきちゆう すいじょうき くも 空気中の水蒸気が雲をつくる

うみ みずうみ かわ じめん すこ みず じょうはつ みず じょうはつ すいじょうき  
海や湖、川や地面などから、いつも少しずつ水が蒸発しています。水は蒸発して水蒸気  
になり、空気中にふくまれます。

すいじょうき あたた そらたか じょうくう すいじょうき  
水蒸気は、暖められてだんだんと空高くのぼっていきます。上空にのぼった水蒸気は、  
ひ やされて、ちい みず こおり  
冷やされて、小さな水や氷のつぶになり、たくさん集まって雲をつくります。

### くも 雲のつぶにちがいがある

あたた あめ ねったいちほう ふ ねったいちほう くも そら ひく ところ せ  
暖かい雨は、熱帯地方に降ります。熱帯地方の雲は、空の低い所にてきて、背もあまり  
たか 高くありません。それに、くも じょうぶ おんど どスーい か  
雲の上部の温度も0以下にならないので、雲のつぶのほとん  
どは、みず  
水のつぶになっています。

この水のつぶが落ちてくるときに、さらに、まわりにみず  
この水のつぶが落ちてくるときに、さらに、まわりに水のつぶがついて、大きな雨のつぶ  
になります。大きくなりすぎた雨のつぶは割れて、たくさんの雨のつぶになります。

つめ あめ おんたいちほう きた ちほう ふ あめ  
冷たい雨は、日本などの温帯地方よりも、北の地方で降る雨です。このときの雲は背が高  
く、くも じょうぶ ひょうしょう こおり  
雲の上部は、氷晶（氷のつぶ）、そのほかの所は、みず  
水のつぶからできています。

つめ あめ ひょうしょう あめ はじ じょうぶ ひょうしょう おお  
冷たい雨は、氷晶が雨のもとになっています。初めに上部の氷晶が、大きくなって落  
ち始め、お  
ち始め、落ちてくるときに、まわりにみず  
ち始め、落ちてくるときに、まわりに水のつぶがついて、さらに大きくなります。

つめ あめ くも こおり ゆき ふ  
冷たい雨は、雲をつくっている氷や雪のつぶが、とけながら降ってくるもので、地上の  
き おん ひく ゆき たい あたた あめ くも あめ  
気温が低いと、とけきれずに雪になります。これに対して暖かい雨は、もともとの雲が雨つ  
ぶでできています。（監修・村山 貢司）

